

多様化するバイオマーカー研究を支える分析技術

東レリサーチセンターではバイオマーカーの探索から有効性の検証、実用に至る各研究段階において、豊富な経験と確かな分析技術でサポート致します。

バイオマーカー研究の流れ

バイオマーカー探索

有効性の検証

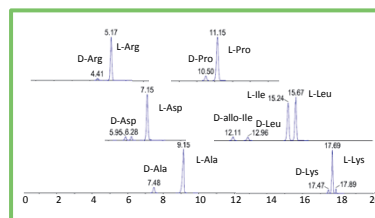
臨床実用及び応用



分析事例

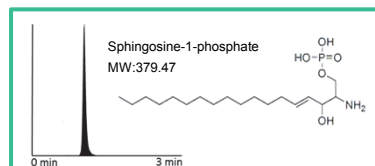
D,L-アミノ酸

光学異性体を分離分析する技術の発達に伴い、D-アミノ酸の分布や動態に関係する研究が進んでいる。近年さまざまな精神疾患および生殖との関連なども指摘されている。



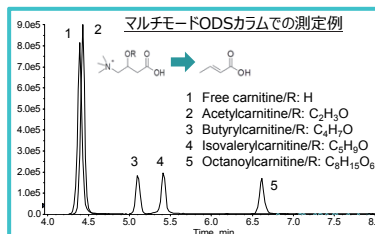
スフィンゴシン 1-リン酸 (S1P)

選択的かつ高感度なS1Pの測定が可能になり、細胞内外で細胞増殖、免疫機能、神経伝達物質の調節などに関与する脂質メディエーターの一つであることが明らかとなった。急性肝不全の予後予測因子としても期待されている。



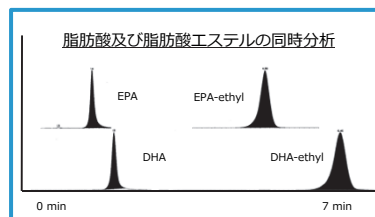
カルニチン 遊離カルニチン アシルカルニチン

長鎖アシルカルニチン群の測定により、パーキンソン病診断のバイオマーカーになりうる事が明らかとなり、早期診断や発症前診断への足がかりになると期待されている。また、新生児スクリーニングによる先天性代謝異常の早期発見に寄与している。



脂肪酸 脂肪酸 脂肪酸エステル

血中の必須脂肪酸のバランスは疾患リスクを知るための指標であり、バイオマーカーとして注目されている。特に循環器領域においては、心血管系疾患をはじめ様々な炎症性疾患の指標として重要視されている。



その他の分析例

サイトカイン	インターロイキン、腫瘍壊死因子、増殖因子、ケモカイン
ペプチド	アンジオテンシン類、グルタチオン
脂質メディエーター	プロスタグランジン類、アナンダマイド、コレステロール、オキシステロール、エストラジオール、アルドステロン、胆汁酸
ビタミン	VA、VB1、VB2、VB6、VD、VE、VK
核酸	miRNA、アデノシンーリン酸類
ムコ多糖	コンドロイチン4-硫酸
その他	カテコールアミン、L-DOPA、一酸化窒素

バイオマーカーの分析なら是非TRCにご相談下さい

